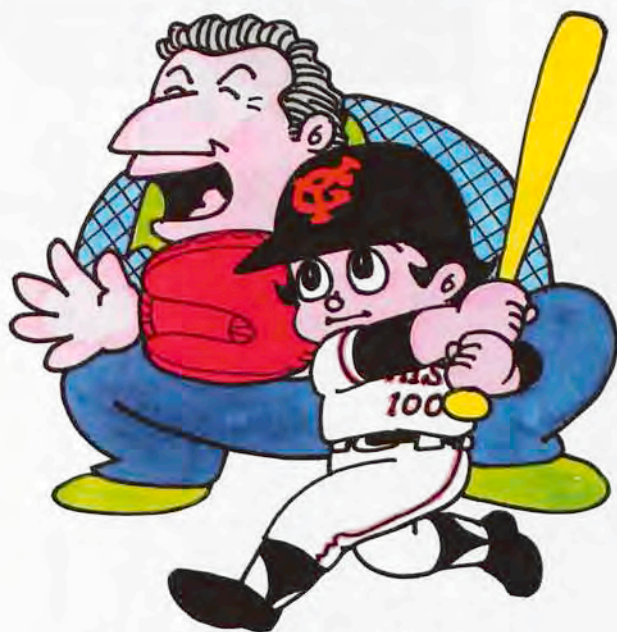


# かたりべ 28

豊島区立郷土資料館だより



「スポーツマン金太郎」と寺田ヒロオ（館蔵）



トキワ荘自室の寺田ヒロオ<1956年春撮影>  
(特別展図録「トキワ荘のヒーローたち」より転載)

去る九月二四日、漫画家の寺田ヒロオ（本名寺田博雄）氏のご逝去されました（享年八一歳）。新潟県生まれの寺田氏は、一九五三年に上京し、豊島区椎名町（現南長崎）にあった「トキワ荘」に故手塚治虫氏に続いて入居しました。漫画研究グループ「新漫画党」の中ではリーダー的存在を果たし、野球漫画の第一人者として活躍されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

## 寺田ヒロオ氏を偲んで

蔵持 重裕

あれほど明るいスポーツ漫画があつたであろうか。「金太郎」のくりくり眼、疲れを知らぬファイト、素直な根性。柔らかな描線が活きていた。

今、少年漫画雑誌には根性もののスポーツ漫画があふれている。しかし、ごく一部のものを除いて、スポーツ本来のもつ楽しさと爽快さを表現しえているものはない。「金太郎」のようなスポーツ漫画がないのである。漫画は理屈ではない。絵そのものが夢でなければならぬのである。

文化は独自の展開を持ちつつもやはり時代の産物である。したがって、時代を隔つたものに優劣をつけるのは無意味であろう。それを行うつもりはない。しかし、こうなることを三〇年前寺田ヒロオは見抜いていた。

数年前、茅ヶ崎の自宅でお会いした寺田は、物静かというよりは精気を欠いて見えた。

描くのを止めたという訳ではなく、描きたくなくなつたら、また描きます。でも私には週刊雑誌というスピードは性に合わないですね。今の漫画は夢がないですね。「漫画少年」のようなあ、いう雑誌に描きたいですね。結構ファンもいるんですがね。

「金太郎」のイメージからはとまどいがあった。資料館の企画した座談会への出席も断られた。現存する人々の過去の復原という「展示」は全天照明が出来ず、影をつくってしまうような難しさを思った。

しかし、その寺田ヒロオが「トキワ荘のヒーローたち」の展示を覗にきてくれたのは意外でうれしかった。復原した部屋の当時のフスマにサインをしていってくれた。私の留守中であつた。じつくりと話し聞きたい人であつた。「金太郎」という強烈なメッセージを現世に残し逝つた。安らかに眠られることを祈ります。



# 特集 新館設立に向けてⅢ “収蔵庫探検隊が行く” 第1回

前号の『かたりべ27号』では、「現在の当館の展示が利用者の方々からどのようにみられているのか」という観点から来館者の方にインタビューを行い、新館の展示構成・展示室のあり方について展望してみました。

続く今号からは、四回にわたって「新館の収蔵庫はどうあるべきか」という問題に迫ってみたいと思います。

当館のような地域博物館を語る際、往々にしてどのような展示構成にしているかという側面にのみ重点が置かれがちですが、住民から提供を受けた諸資料や購入資料を、いかなる方法で効率的に収蔵庫に納め、保存していくかということもきわめて重要な問題であり、慎重に検討していかなければならないと思います。



以上のような問題意識から、はじめの三回は当館の誇る(恥じる?)謎の収蔵庫探検隊(写真上)による他の資料館・博物館の収蔵庫の訪問記を、

最終回は二三区の資料館・博物館の中で、現在の当館の収蔵庫がどのような位置にあり、今後新館の設立に向けてどのような収蔵庫を目指していけば良いのかという問題について考察していきたいと思います。

第一回目は、新宿区立新宿歴史博物館(所在地・新宿区三栄町二二番地 JR四谷駅から徒歩一〇分程)を取り上げました。去る一月五日に訪問した我々を長時間にわたりお相手して下さったのは鈴木靖学芸員(写真下)です。



## 新宿歴史博物館収蔵庫訪問記

東京都新宿区立新宿歴史博物館は、一九八九(平成元)年一月に開館した歴史系の地域博物館です。常設展示は、「大地に刻まれた歴史」「中世の新宿」「江戸のくらしと新宿」「近代文学にみる新宿」「昭和初期の新宿」「未来にかける新宿」の六つのコーナーで構成され、年

間三回開催される特別展・企画展とともに多くの来館者を迎えています。

さて、同館には左記のように一般収蔵庫、特別収蔵庫、重要資料収蔵庫があり、資料の種類・性格によって使い分けがなされています。以下、各収蔵庫の状況についてやや詳しくみていくことにしましょう。

収蔵庫名	面積(単位㎡)	空調設備・設定温湿度
一般収蔵庫 (地下2階)	265.39 積層部分含まず	職員在館中のみ空調 22~23℃ 50~55%
特別収蔵庫 (地下1階)	108.27	24時間空調 22~23℃
重要資料収蔵庫 (地上2階)	40.33	24時間空調 22~23℃ 50~55%
合計	413.99 一般収蔵庫の積層部分は含まず	但し、漆器類を収蔵する高湿度型収蔵庫は65%に設定

### 一般収蔵庫を拝見



一般収蔵庫（2階部分）

積層構造になっているこの収蔵庫は、地下二階に設置されていることから湿気の問題を考慮して二重壁の構造となっており、おもに考古資料（一階部分）と民俗資料（二階部分）が収蔵されています。考古資料は天箱に収納して整然と重量ラックに納められています。また民俗資料のうち小型のものは移動ラックに納められています。地下に収蔵庫を設置したため、当初高湿度になるのではないかと懸念もあったようですが、今のところ全く問題はなく、むしろ二重壁にしたことにより外気が遮断され温湿度変化が少ないとのことでした。

### 特別収蔵庫を拝見



特別収蔵庫（入口付近より撮影）

庫内壁面・床面とも総板張りが施されているこの収蔵庫には、古文書・掛軸・文学関係資料（自筆原稿・貴重本など）・絵画・衣類などが収蔵されています。古文書類を収納するための桐の箱や衣類収納用の桐箆箱は、特別注文で装備したものです。天井部分近くまで収納スペースが設けられているため、かなり多くの資料を収蔵することが可能です。

### 重要資料収蔵庫を拝見



漆器類収納のための重要資料収蔵庫

この収蔵庫は、高価格の購入資料（絵画・浮世絵・書等）を収納する総板張りの収蔵庫と、収蔵庫内湿度を六五％に設定した高湿度型の収蔵庫との二つからなっています（ただし前室は同じ）。前者は、特別展・企画展開催等のために外部から借用してきた資料、および受け入れ資料を整理するまでの一時保管庫の役割も果たしています。また、他の地域博物館ではあまり例をみない後者には、ある程度の高湿度の中で管理しなければならぬ漆器類等が納められています。



**1** 当初予想しなかった資料が、開館後区民から寄せられたため、資料を棚や収納容器ではなく床面に置かざるを得ない場合がある。様々な受け入れ資料に対応できるような収蔵庫づくりを目指していくべきではないか。

**2** 各収蔵庫内の温湿度調整を空調設備に頼り過ぎているのではないか。すなわち、たとえ空調設備が故障や停電などの理由で機能しなくなったとしても、それに耐えられるような（外気の影響をなるべく受けないうような）建物の構造にする必要があるのではないか。

**3** 当初から二・三階部分の書庫スペースに書籍はもちろん、区役所の行政文書（非現用のもの）を保管する予定であり、現在実際に収蔵しているが、外気の影響を受けやすく保存環境に若干の問題がある。

**4** 発行した刊行物を置くためのスペースが少ないため、書庫内や廊下に置いている現状である。資料保存のための収蔵庫ではなく使い方に自由のきく、いわゆる倉庫や物置のスペースが必要である。

### 取材を終えて

新宿歴史博物館の展示室面積八五八・〇六㎡（うち企画展示室二一九・九八㎡）に対して収蔵庫面積は四一三・九九㎡（ただし、この数字に一般収蔵庫積層部分は含まれていない）であり、総延床面積三八四五・六六㎡の博物館としては決して広いとは言えません。このことは、博物館建築が具体的に変わった段階から、すでに収蔵しきれない民具資料・考古資料があることがわかっていたため、区内小学校の空き教室、および公共施設を収蔵スペースとして確保し、現在に至っても使用していることに示されています。やはり、来館者が一番親しみやすい展示スペースに重点を置いたということなのでしょう。か。とはいっても、展示室面積二四六・八八㎡に対して収蔵スペースがわずか三七・一八㎡の当館にとっては、羨ましいほどの広さであり設備でした。

さて、鈴木氏が、先に問題点の二番目として指摘されていますが、空調設備の是非については今後検討を重ねていかなければならないことがらだと思えます。「二四時間ひたすら空調機をまわしておけば安全だ」という短絡的な議論ではなく、「空調によってこのような資料への悪影響を生じさせてしまった」とか、「空調設

備がなくても建物構造によって十分に資料は保存・管理できる」という事例を多く集め、検討していきたいと思えます。また、問題点の四番目については、他の博物館でも同じような話を聞いたことがあります。つまり、建築設計の段階では収集した資料をいかに収蔵していくかのみに関心が集中してしまい、開館後次々と発刊される図録・資料集や、日常的に用いる道具類を置いておくスペースを確保するのを忘れてしまっただけです。結果的にはこれらのものを収蔵庫内に保管している場合が多いようです。

今回の取材では、我々の目からみて恵まれていると思われる収蔵庫の事例として新宿歴史博物館を取り上げました。しかし、実務を担当し常に収蔵庫と接している学芸員にとっては、改善すべき点もいくつかあるということがわかりました。鈴木氏が自館収蔵庫の問題点を率直に語ってくださったのは、豊島区の新館設立の際にこれらの問題点を克服してほしいという我々に対しての励ましの意味が込められていたものと思われまます。

「収蔵庫探検隊」の存在は、多くが謎のベールに包まれています。わかっているのは、どこかの地域博物館に突然出現する、ということだけです。次回をお楽しみに！

（秋山）

## 歴史講座・地域史講座を受講して

郷土資料館では、毎年四種類程度の講座を設け、多くの方々にご参加いただいています。今年度も、左記のように計画した四講座のうち三講座につきましては、多くの受講者を迎え好評のうちに終了いたしました。

ここでは、すでに終了した三講座を受講者された方々から講座終了時に行ったアンケートを通じていただいた率直なご意見・ご感想を紹介したいと思います。

講座名	開催期間ほか
歴史講座 豊島氏の謎にせまる	7月5日～7月26日 全4回 講師4名
歴史講座 戦争を考える夏	8月9日～8月30日 全3回 講師3名
地域史講座 江戸時代の古文書を読むII	9月5日～10月31日 全8回 講師1名
地域史講座 区境をあるく	3月7日～3月28日 全4回 講師交渉中

### 「豊島氏の謎にせまる」の受講者から

(1) 今回の講座は、文献資料による豊島氏の歴史のため、断片的だったので、豊島氏個人の人物像、また中央の歴史にどのように関係し

ていたか分かれれば大変おもしろいのではないでしょうか。〈51才 男性〉

(2) 講師の先生の持ち時間が一回ずつで時間が足りなかったと思いますが、(進行が)早すぎてついていけなかった場合があります。内容に対する時間の配分を考えていただければと思います。(今回のような)資料館の出版物を使用している講座はとも良いと思います。〈年齢・性別不詳〉

(3) 豊島氏の歴史を知ることによってより一層豊島区に愛情を感じることができました。また、鎌倉北条氏の歴史をより一層理解することができました。(中略)講師諸先生に感謝申し上げます。〈68才 男性〉

(4) 各週の講義に何らかのつながりを持たせて欲しいと思います。〈年齢不詳 女性〉



「豊島氏の謎にせまる」受講風景

### 「戦争を考える夏」の受講者から

(1) (自衛隊市ヶ谷駐屯地の見学について)

現代に残る基地としての造形物が、できるだけ見学できるようになれば戦中・戦後・現代をもっと正しく考えることができると思われます。〈57才 男性〉

(2) 戦時中軍部と一般国民の置かれている状況の相違がわかった。戦争を知らない自衛官が戦時中の出来事を生き生きとしかも講談風に説明する姿を見て驚いた。〈60才 男性〉

(3) 初めて極東軍事裁判が行われた講堂を見学できて有意義でした。〈44才 男性〉

(4) とにかく現場(地)を見る、確認する事が何よりも大切。歴史(講座)の場合には特に必要。企画関係者は御苦労だと思いますが、私自身は出歩く事が好きなので苦にならない。〈年齢・性別不詳〉

(5) (講座全体について)

〔戦争に関する〕映画鑑賞会のほかに、もう一回程度参加者がディスカッションする会合も必要ではないか。〈前掲60才男性〉

(6) 戦後47年という半世紀が過ぎようとしている現在、国際状況が変化しつつも過去の教訓を生かして平和実現に向かいたい。〈前掲44才男性〉



(7) もっと資料を広く集め、豊富な話題を望みます。

〈69才 男性〉

(8) 生の体験談などを伺うことができると思ったのですが……。〈年齢・性別不詳〉



「戦争を考える夏」見学会風景

### 「江戸時代の古文書を読むⅡ」の受講者から

(1) 大変内容の濃い授業でした。江戸の実生活、風俗なども文章の中から伺い知ることができ、有意義でした。〈27才 女性〉

(2) 古文書の文字解読はもちろん、江戸時代の社会的時代背景を説明して下さっておもしろかったです。また、基本的な言葉の説明もよかったです。また、反復しすぎたこともあって時間をもったいなかったこともありましたが、何よりも色々な史料をもっとたくさん読んでみたかったです。〈年齢・性別不詳〉

(3) むずかしいお話ばかりかと思いましたが、古文書だけでなく江戸時代のいろいろなことも同時に教えていただけで、とても楽しかったです。〈59才 女性〉

(4) 古文書の難しさがわかりました。特にその人により書く字が異なり、解読するのに苦労いたしますが、少しずつわかり大変嬉しく思います。今後も続けて受講いたします。〈65才 男性〉

(5) 講座でなければ聞くことが出来ない用字解読のテクニク等、特に参考になりました。ほんとうに良い講座でした。〈62才 男性〉

「たいへん有意義だった。」というご感想、「この点をこうしたほうが良いのでは……。」というアドヴァイス、様々なご感想やご意見が寄せられました。当館では、アンケートを通じて得た受講者の声を素直に受けとめ、募集方法、開催時期、開催回数、進行方法などについて可能なかぎり改善し、なるべく多くの皆さまのご期待にお応えしたいと思います。

来年度以降の歴史講座・地域史講座にもどうぞ奮ってご参加願います。  
(秋山)



「江戸時代の古文書を読むⅡ」受講風景

### Q 郷土資料館 なんでもQ&A

昭和七年（一九三二）に豊島区が成立する経緯について教えてください。

#### A

交通機関の整備や関東大震災を契機とする都市化の進行によって、東京に隣接する町村は、生活面でも、行政面でも東京市と密接な関係を持つようになってきました。そこで、東京市を拡張して隣接する町村を合併し新しい区にしようということになりました。その時、東京市では、豊島区域については高田・西巢鴨・長崎の三町で池袋区を編成し、巢鴨・滝野川の二町で滝野川区を編成する案をもっていました。

一方、長崎・高田・西巢鴨町民有志の人々は、区の名前や役所の位置については意見が違っていました。東京市と同様の案を要望しました。

しかし、西巢鴨町長は高田・西巢鴨・長崎・巢鴨の四町で豊島区を編成することを請願しました。また、巢鴨町では町民の一部が滝野川町と一緒にすることを主張していました。他の町民は巢鴨・西巢鴨の不可分を主張していました。これらの意見を受け、東京府は一九三二（昭和七）年五月に高田・西巢鴨・長崎・巢鴨の四町で豊島区を編成することを決定しました。  
(伊藤)



## 連載 一点の資料から 《その3》

### 景観写真を見る・読む・探る

このコーナーの名称は「一点の資料から」であるが、今回は「二点の資料から」とでもなるのであろうか。二枚の景観写真から、どのような情報が得られるか考えてみよう。

下に示した二枚の写真は、昭和三〇年代はじめの池袋西口のマーケットの様子を、同じ位置から撮影したものである（若干アングルは異なる）。

正面右に見えるビルは東横デパート（現在の東武百貨店）で、その手前に広がる低い建物が池袋西口マーケットである。撮影位置はマーケット街の中にあつた消防署であらう。

写真①では空き地である場所に、写真②には倉庫や商店らしい建物が建てられている。池袋西口の再開発は昭和三〇年から始まるので、一見写真①より前に写真②が撮影されたように考えられる。しかし、写真②には東横デパートの上に建築中の建物がみえるので、②の方があとに撮られた写真であるということがわかる。このことは、再開発が着手された以降もマーケットの営みが盛んであつたことをも示すものであろう。また、昔の写真を見たとき、撮影された景観の美しさや、懐かしさなどに気をとられていると、写真から得られる細かい情報を見落として



写真①

しまうことがある。

たとえば、写真②を見ると、東横デパートの前の路地に葦籬が掛けられており、また、その手前の倉庫風の建物の影が非常に短い。このことから、写真②が撮影されたのは夏であらうと



写真②

の推測が可能である。

このように、写真は多くの情報を潜ませてくれる。注意深く見ていくことにより、時代をより一層鮮明に浮かび上がらせてくれるものが、写真なのである。

（伊藤）



# 豊島区立郷土資料館からのご案内

## ★特別展記念事業開催のお知らせ

郷土資料館にて開催中の区制施行60周年記念特別展「写真にみる豊島60年のあゆみ展」(一月一三日まで)の記念事業として、左記のとおり講演会・座談会を開催いたします。現在電話申込み受付中です。参加希望の方はお早めにお申込み下さい。

### ◎記念講演会(2)

演題…地図に見る豊島区の移り変わり  
講師…清水靖夫氏(立教高校教諭)

日時…一月六日(日) 午後二時から四時まで  
会場…勤労福祉会館第四・五会議室

### ◎記念公開座談会

演題…豊島区を語る(区内に昔からお住まいの方に座談会形式でお話を伺います)

出席者…田崎幾太郎氏(区内巢鴨在住)  
矢島勝昭氏(区内南池袋在住)

沢 寿次氏(区内要町在住)

日時…一月一三日(日) 午後一時三〇分から  
四時三〇分まで

会場…勤労福祉会館第四・五会議室

## ★特別展図録刊行のお知らせ

特別展の開催にあわせ、特別展図録「写真に

みる豊島60年の

あゆみ展」(B5

版79頁)を刊行

いたしました。

(下写真参照)

特別展見学の際

に受付にてご購入願います(一部四〇〇円)。



★地域史講座「区境をあるく」(全四回)開催のお知らせ

来年三月七・一四・二一・二八日(毎週日曜日)に、「区境をあるく」と題するフィールドワークを行います。区境のもつ意味や豊島区内の景観の移り変わり等に興味をお持ちの方は、是非ご参加下さい。詳しい内容、募集方法などは次号および「広報としま」にてご案内いたします。

## ★郷土資料館展示室閉鎖のお知らせ

特別展「写真にみる豊島60年のあゆみ展」の終了に伴い、展示室の機材撤去作業と常設展示復元のため一月一四日(月)から一月二三日(水)まで展示室を閉鎖いたします。なお、事務室は開室しておりますので、御用がおりの方は受付までお越し下さい。

## 編集後記

庭の木々もすっかり落葉し、冬が駆け足でやってきました。あつと言う間に一年が過ぎようとしています。

故寺田ヒロオ氏には、一九八六年秋の特別展「トキワ荘のヒーローたち——漫画にかけた青春——」開催の時にはたくさんの資料を提供していただくなど、多大なご協力をいただきました。巻頭の文章を執筆していただいた蔵持氏は、その特別展の企画・準備を中心的に担当された方です。ご寄稿ありがとうございました。

\* \* \*

現在開催中の特別展「写真にみる豊島60年のあゆみ展」は、一月一三日(日)で終了となります。まだ、ご見学されていない方は会期中に是非ご来館下さい。

かたりべ

・ No.28

・ 1992年11月30日  
発行

・ 豊島区立郷土資料館

・ 豊島区西池袋2-37-4

・ 電話03-3980-2351